南風原平和ガイドちゅ～しん

第9号
発行者　南風原平和ガイドの会
沖縄県南風原町字兼城７１６番地
南風原町立南風原文化センター内
電話　(098-889-7399)

壕の構築

南風原文化センター　上地克哉

戦時中、日本軍壕の構築は、主に築城隊という壕堀り専門の部隊が行なっていました。

例えば、黄金森の陸軍病院壕は 、第二野戦築城隊（球10158）が中心となって構築。宇津嘉山の第32軍司令部壕は、第32軍経理部築城班（球1616）、第二野戦築城隊（球10158）、要塞建築勤務第7中隊（球2775）が構築しています。

構築に際」しては、軍隊だけでなく多くの民間人も徴用されました。

旧日本軍には 、壕を掘る際のマニュアルがありました。

戦地における陣地には、露天防空壕や洞窟式防空壕、交通壕 、坑道式防空壕など様々な種類があり 、それぞれについての構築方法が詳細に記述されています。 例えば、黄金森の喜屋武シジ周辺にも残っている溝状の交通壕（散兵壕）については、その深さや幅、壁面の角度、掘削方法や手順と共に狭小な壕内の整理整頓をしつける記述なども見られます。 また、20号壕のような坑道式防空壕（横穴壕）については、地形や地質の選定方法といくつかの壕の形状を示した上で出入口は勉めて2ヶ所造ることや、200kg爆弾に対しても同時に両入口を破壊されないような距離（10m）で、出入口を構築しなさい等という細かな指示まであります。

また、これまでの発掘調査でも確認されている様な壕入口を屈曲させる形状の図解と説明もあり壕近くに着弾した爆弾の破片や爆風を避けるために屈曲させることが記載されています。

このように、軍によってマニュアル化された陣地構築方法が各地で応用されて陣地や防空壕として構築されました。 またそれは、住民の避難壕構築にも共通するものでした。

（翁長まゆみ編集員）

見学者の質問にお答えします

南風原文化センター　古賀　徳子

Q. 20号壕にある「姜」の文字は、朝鮮出身の兵隊が書いたそうですが 、なぜ沖縄戦に朝鮮の人が参加していたのですか？

A. 当時、沖縄にいた朝鮮の人たちには、①強制や就労詐欺によって連れてこられた、軍夫や「慰安婦」、 ②徴兵か志願で日本陸軍に入隊した軍人、 ③沖縄に定住していた民間の人がいました。沖縄陸軍病院に入院していたのは②の陸軍の軍人と考えられます。

日本は1910年に朝鮮（現在の韓国と北朝鮮）を併合し、1945年までの35年間、植民地として支配しました。その間、朝鮮で展開された抗日・独立運動は投獄や拷問によって弾圧されたのです。日中戦争（1937年）が始まると、朝鮮は中国大陸へ兵站基地（前線部隊へ軍需品を補給・輸送する基地）にされ、100万人以上の朝鮮人の人たちが、軍需工場や戦場に動員されました。

日本は朝鮮に徴兵制度を敷くため、志願兵制度の制定、神社参拝の強制、日本語の普及、創氏改名など、徹底した皇民化教育を行い、「日本人以上の日本人」 になることを課しました。それは朝鮮人に銃を持たせることに対する不安、不信感の裏返しでした。

「姜」の文字が刻まれた20号壕では、寝台の上段にベン上等兵と呼ばれる朝鮮の軍人が入院していました。彼は気管支を負傷したのか、胸に五円玉のような穴の空いた器具を差し込まれ、そこから息をしていました。平和の礎には12人の「姜」の名が刻まれていますが、彼が含まれているかは不明です。

当時19号壕に勤務していた照屋信子さん（師範本科1年）は、サンコンと呼ばれる朝鮮の青年が「同じ日本の軍人として働きに来ているのに。日本人と同じ天皇の赤子なのに、朝鮮人だと差別を受ける」と嘆いていたのを覚えています。信子さんは近くの畑でネギを探し、彼に食べさせてあげましたが、やがてサンコンさんは亡くなりました。

なお、「皇国臣化」として沖縄戦に参加させられた朝鮮人たちは、戦後は「外国人」 として見捨てられ、一切の援護体制から除外されたのです。

（翁長まゆみ編集員）

天井に刻まれた文字

連載『閃光の中で』

沖縄陸軍病院の証言

第三外科の南風原撤退　中編

青酸カリによる自決について

軍医見習士官　長田　紀春

青酸カリ（KCN）は白色の粉末状をしており、口から接取すると体内に吸収されて血中のヘモグロビンと強く結合してCNHBとなる。そのために酸素が結合できなくなり、意識が消失して痙攣を起こし窒息死する。致死量（0、15～0、3g）以上を服用する場合、数分以内で間違いなく死亡するといわれるほどの劇薬である。

青酸カリは一般に自殺や殺人に使われる毒薬としてその名前がよく知られている薬物であるが、この毒薬がいつから、日本陸軍に使われるようになったかについては詳らかではない。

日本人は昔から武人の切腹等の話を聞かされており、自決をすんなりと受け入れる気持ちが強い。そのために中国における戦闘行為の経験やノモンハン事件で負傷して捕虜になった将兵のみじめな姿を見てからは、簡単に携帯できて、しかも手軽に死ねる薬として兵隊や軍の衛生関係者の間で人気の高まった毒薬である。

だが、その管理は厳重であり、軍人でも容易に入手できないだけに、いつ負傷してのた打ちまわるような哀れな身になるかもしれない戦場の軍人にとっては、いわば憧れの薬となっていたのである 。 文化の進んでいる欧米の国家と戦争をしたことのない日本の兵隊は、沖縄戦でのように、米軍が負傷兵や捕虜に対して如何なる取り扱いをするのか判っていなくて、敗戦の場合にすぐ自決を考えて、青酸カリの使用を思い立つのも 、時代の背景からその心情は察することができる。 また、沖縄防衛の天王山である首里を攻め落として勢いに乗って迫ってきた米軍に追われながら 、混乱して敗走するという異常事態の中では 、敵中に残していく重傷患者の枕元に青酸カリを置いていくことも、当時としてはやり兼ねないことと思われるのである。

敗戦の戦場において、敵中に置いていく重傷患者を安楽死させるのが、良いのか悪いのか、その当時としては判断が難しく、戦争という巨大罪悪によって引き起こされた人間の悲劇としか言いようがない。

しかし、陸軍病院が大量の青酸カリを前々から用意していたことは、軍医部等の上層部の命令で 、最悪の場合をかねてから考慮してのことであろうが 、やはり個々の患者の苦痛を少なくするというよりも、軍の対面や秘密の保持を考え玉砕精神を励ますのが目的だったと言っていいだろう。

さらに残念なことは、生還できる可能性のある戦傷者にも無差別に青酸カリを与え服用させたことである。

京都在住の岡襄氏が 、戦争中南風原の陸軍病院の第一外科壕に入院して体験した、凄惨な話が平成三年十月十六日の朝日新聞に載っている。それは病院が南部に撤退する時に毒入りのミルクを飲まされたが、気付いて吐き出して助かり生還できたという証言である。その記事を読んで同病院の職員であった一員として、 心から胸の痛みを覚えるのである。

（安仁屋真孝編集員）

※後編は一括掲載の予定でしたが、原稿量が多いため、中編・後編に分けて掲載したします。

今回は南風原町立南星中学校３年生の皆様から壕を見学した後の感想を送っていただきました。人数が多いため一部分を割愛させていただいております、みなさん感想を大切に励んでいきます。

10月3日に、陸軍病院20号壕の案内をしてくれて、ありがとうございました。壕を見学しながら、当時のひめゆり学徒隊の話しや、当時の食事、体験などを教えてもらい、戦争の怖さやむごたらしさを少しでも、わかったような気がしました。壕の見学の体験を通して今後もっと平和について考えないといけないなと思いました。
そして二度と戦争はおきてほしくないなと思いました。

3年　赤嶺　咲季

先月の「沖縄陸軍病院20号」では、お忙しい中いろいろと教えていただきお世話になりました。
私にとって大変貴重な一日となりました。私は南風原にある陸軍病院の事は何も知らなかったけど、平和ガイドさんがいろいろ説明してくれて、たくさんの戦争のことを知ることができました。ひめゆり学徒の体験を聞いてどれだけ戦争の恐ろしさをあらためて実感しました。これからも、もっと戦争について調べていきたいと思います。

3年　赤嶺　麻斗香

私は沖縄戦でも重要な場所となった、南風原陸軍病院壕に入ってみたいと思っていました。
実際に中に入ってみると、戦争の悲惨さや、平和のありがたさ命の尊さを実感することができました。

3年　東江　拓海

私は南風原に住んでいながら、20号壕に行くのは初めてで、あまりここで起きた戦争のことについては知りませんでした。だけど今回のことでこの壕で何が起こったのか、どんな人がいたのかを知る事ができました。
そして、とても悲しく思いました。これからは、学んだことを忘れずに、平和についてもっとよく考えていこうと思います。

3年　上里　萌

私の住んでいる沖縄で、あんなにも大きな戦争があったかと思うと、今にも心が痛みます。
壕の中で、とても分かりやすく、戦争の事、壕の中での話がとても感動しました。
戦争の話を次の若い世代へ受け継ぎたいと思いました。

3年　大城　璃沙子

先日の「20号壕見学」は自分にとって、とても貴重な体験となりました。沖縄戦は町内で起こった身近な事なんだと実感しました。
今後は壕見学を私たちの学習に、生かせればいいと思います。ガイドの皆様もこれから沖縄戦の悲惨さや真実を多くの人々に伝えてください。

3年　大城　良紀

先日の「体験学習」ではお忙しい中私たちのために壕の案内をしてくださり、ありがとうございました。
初めて20号壕の中に入り、戦争のことをもっと詳しく知.事が出来ました。
これからも平和について考え、教えてもらったことを生かしていきたいです。

3年　神里　梨佳

文化センターと20号を見学して、戦争は恐ろしいもので、二度とおこしてはいけないんだ、と強く思いました特に 20号の中は、リアルで同じ南風原の中でこんな恐ろしいことがあったなんて、想像もしていませんでした。

3年　金城　夏希

私は今回の見学で初めて知ったことが沢山ありました青酸カリを飲ませて殺したり、ひめゆり学徒隊たちが兵士を真夜中暗い中4人で運んでいて、照明弾で死ぬ人もいたなど貴重な話が聞けました。
また、教科書検定問題の話しで本当にあった出来事をなくしてはいけないと思いました。
今後、戦争についてもっと調べて考えていきたいと思います。 ありがとうございました。

3年　金城　成美

沖縄戦の残酷さやおそろしさを知り、壕の中に入りその中で行われていた事やいろんな事を学ぶ事ができました。それから壕の中に初めて入って、21号と19号にもつながっている事を知りびっくりしました。

3年　金城　由佳

僕は20号を見学して、南風原に壕が作られたわけ、壕はどうなっていったのかがよくわかりました。
壕の中は木のくいでこわれないようにしていたことがわかっておどろきました。

3年　久保　秀敏

20号を見学して改めて、沖縄戦の悲惨さを知る事ができました。
今後とも20号見学を学習に生かしてがんばりたいと思います。

3年　城間

63年前の戦争、地元南風原の事を詳しく教えてもらいました。
今後は、後輩や友達などに戦争の事を教えられるようにしたいです。

3年　新城　安史

私は戦争をあじわったことがないので、戦争のことは少しだけしかわかりませんでした。
陸軍病院があるのは知ってたけど、その中に入ったことがありませんでした。でも金城さんが教えてくれたおかげでわかりました。今後はみんなに教えたいです。
とてもいい体験になりました。

3年　永山　俊介

私は南風原陸軍病院で戦争当時は、せまい中、人がおしこめられ敵の空襲から逃れていたことや軍の人が避難してきた人にどういう態度をとっていたのかなどいろいろな事がわかり勉強になりました。

3年　仲里　卓也

私は沖縄戦について知っている事は、あまり多くなかったのですが、この見学を通して沖縄戦がとてつもなく悲惨なものだと感じました。
壕の中は暗くて肌寒く、狭い場所でした。こんな所で長時間敵兵からかくれていたら、精神的にきつそうだと思いました。今後は沖縄戦についての理解を深め広めていきたいと思います。

3年　仲里　大吾

10月3日に『沖縄陸軍病院』の案内をしてくれてありがとうございました。暗くてせまいのによくケガ人のめんどうを見るとか大変だなーと思いました。
戦争は何の為にやったのかわからないです。人の命をうばっていく馬鹿なゲームにしか思いませんでした。
体験はしていないけど写真集とか見るとグロイ写真しかないと思いました。将来は、日本に戦争がおきない地球にしたいと思いました。

3年　宮城　美月

文化センターでいろいろ見学したり話しをきいたり、とても勉強になりました。ありがとうございます。
文化センターと20号の見学をしてあらためて戦争について分かりました。亡くなった人も多くて本当に大変だったなぁーと思い、特に20号の中に入った時は暗くて怖かったです。憲法9条も読んで『もう戦争はしない』という思いが強く感じ、良かったです。

3年　松堂　風子

私にとって大変貴重な一日となりました。壕といえば中は広いのかなと思っていたけれど、実際中に入ってみると 、通路は狭く、90cmくらいの小さなベットに患者を寝かしていたということや 、患者がどのようにされていたかを知りました。

3年　前原　卓司

私は初めて壕に入ってみて、改めて戦争の恐ろしさやすさまじさなど、いろいろなことを学ぶことが出来ましたその学んだ事を、今後とも深く考えていきたいです。

3年　諸見里　皐月

ガイドの会第一回役員会議が開催されました

11月8日午後5時より、文化センターにおいて、第一回目の役員会が開催されました。

学習部会
　11月から12月にかけて、会員で黄金森を歩き実地学習をし、マニュアルを作成する。

機関紙編集部会
　ガイド通信の原稿を会員より広く応募する。

広報・宣伝部会
　これからの広報に関する項目を検討。
①奇数月の第4金曜日を広報日と定め、多くに呼びかける。
②南風原町内の学校へのポスター配布と掲示依頼
③自治会を訪問してポスター・パンフレットの配布
④各団体及び壕などの施設へのパンフレットの配布

（藤原政勝）

沢山のご意見をいただき有難うございました。
ご意見を参考にさせていただき、今後もガイドに励んで行きますので宜しくお願いいたします。　（編集者）